

## かきつばた (Rabbitear Iris) 通信

かきつばたの花言葉は「幸福は必ず訪れる」です

第3回若者のためのピアサロンが  
開催されました

COVID-19 第7波中ではありましたが、感染対策を万全にして、第3回若者のためのピアサロンが3年ぶりに開かれました。高校生以上の小児がん経験者同士が集まり、からだのこと、恋愛のこと、就職のこと、結婚のことなど、それぞれに抱えている悩みを打ち明けながら交流を深めました。家族は家族同士で集い、親として子どもの成長とともに変わりゆく悩みや不安を共有しました。当事者講演では、結婚に至るまでの思いや「子どもを授かること」に対する思いなど、当事者の歩んできた軌跡の中で感じたことを発表してもらいました。参加者アンケートでは「みんな同じ気持ちなんだね」「みんな力を持っているんだ」「自分だけじゃないって救われる」といった感想が寄せられました。年に一度、同じ思いをした経験者が集うことには、大きな意味があるようです。COVID-19 感染状況にもよりますが、小児がん相談室ではこのような交流の場を絶やさないよう「with コロナ」体制を構築していきます。



▲座談会@若者のためのピアサロン

病気療養中の高校教育支援体制が  
整いました

小児がんなど、長期入院を余儀なくされる高校生が、留年・退学することなく、入院治療を受けながら高校教育を継続できるシステムが、今年度より静岡県にも導入されました。また8月より、かねてより切望していた「医教連携コーディネーター」も設置されることとなりました。医教連携コーディネーターは、高校生患者のオンラインによる遠隔授業が円滑に進められるよう、ご本人、ご家族、学校、病院をつなぐ役割を担います。また高校受験を控える患者さまへの進路指導、内申書作成までのサポート、進学希望先の学校との連携を担います。病気になってしまった高校生にとって「学校にいけない」ことは、単に授業が遅れる、進級できないといった問題だけでなく、友人、社会との隔絶を意味し、その喪失感や焦燥感は病気に立ち向かうきもちを阻害する因子となります。小児がん相談室では、数年にわたり、県内多施設と連携し、県教育委員会、行政と協議を重ねながら、ようやく「ICTによる授業参加を出席とみなすこと」「ICTを活用し、体育祭、遠足、修学旅行などの学校行事に参加できる権利を擁護すること」「医教連携コーディネーターを配置し、治療中の教育支援、治療後の社会復帰を円滑にすること」をしくみとして導入することができました。今後も当院はじめ、県内の施設が協力しながら、がんのこどもへの教育支援に尽力していく所存です。

## イベントのお知らせ

## 「ほほえみの会」定例会

毎月第二日曜日 11時～院内教室にて  
「Ohana」サマーキャンプは中止しました

ギリギリまで開催を検討していましたが、ちょうどCOVID-19第7波のピークと重なり、今年は中止となりました。来年の申し込みについては今年の申込者を優先に応募開始するそうです

## 小児がん相談室編集後記

今年ことはと計画が進んでいた「Ohana キャンプ」ですが、断腸の思いで中止になりました。小児がん相談室に来てくださる方の多くから「行きたかったね」「久しぶりにみんなで会いたかった」というお声を頂戴しました。コロナウイルスが世の中で騒がれて3年目、早くこどもやご家族が安心して集える環境が戻ってほしいものです。「会いたい」が当たり前にかなう日々が、早く戻りますように。 かとゆ